

## KIP の皆さんが被災地沿岸部を視察しました（2012/1/22）

1月22日（日）、KIP（Knowledge Investment Programs）のみなさんが被災地沿岸部を視察しました。KIPとは、大学・出身地・祖国・世代の異なる学生が集まり、「違う立場」を理解する力を育み、自分と異なるバックグラウンドの人に自分の意見を上手に伝える力を育む場を設け、魅力ある「日本を知る日本人」としての国際人を育成しようとするプログラムです。KIPでは、公募により選ばれた東北の10名の学生と、KIPのメンバーの有志学生たちが来春に訪米し、イエール大学、ハーバード大学、ボストン大学、ジョージタウン大学、ジョージワシントン大学、スタンフォード大学等の学生と「東日本大震災」に関する討論を行う「日米震災復興市民対話」というプログラムを実施しています。同チームの先遣隊として、昨年11月24日に当センターを訪問しています（参照：[http://www.dcrc.tohoku.ac.jp/surveys/20110311/docs/20111124\\_report.pdf](http://www.dcrc.tohoku.ac.jp/surveys/20110311/docs/20111124_report.pdf)）。KIP理事長のパッカー啓子氏らが現地を訪れました。視察では、当センターのアナワット研究員とエリック博士課程生が、岩沼市、名取市・仙台空港・閉上、仙台市・荒浜・仙台港・浪分神社の順で各被災地を案内しました。同時に、東日本大震災の津波による被害や復旧・復興等についての説明を行いました。KIPのみなさんは、今回の視察等を踏まえて、2月～3月にかけて開催されるアメリカでの会合において、東日本大震災の教訓・課題を発信する予定です。



仙台市・荒浜地区での視察（左：アナワット研究員，右：KIPのみなさん）